

2019年度・2020年度

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(A)

蓬莱日本語教室受託「生活者としての外国人」のエンパワーメント事業

『<sup>にほん</sup>日本での生活をもっと<sup>せいかつ</sup>安全にもっと<sup>あんぜん</sup>充実させるための<sup>じゅうじつ</sup>

<sup>にほん</sup><sup>ごきょうざい</sup>日本語教材ワークシート集』を使った

# <sup>かつどう</sup>活動のヒント集<sup>しゅう</sup>

(2020 年度版)



ほうらいにほんごきょうしつ  
蓬莱日本語教室



## 活動ヒント集を閲覧いただく皆さんへ

わたしたちは、日本で生活する外国出身の人たちが、より安全な生活がおくれるように、そしてより充実した生活がおくれるように12のトピックを掲載した日本語学習のためのワークシート『日本での生活をもっと安全にもっと充実させるための日本語教材ワークシート集』を作成しました。12のトピックは、福島県のインドネシア出身者のコミュニティ「コムニタス福島インドネシア」、中国出身者のコミュニティ「日中文化ふれあいの会幸福」、ベトナム出身者コミュニティ、それぞれのコミュニティの皆さんからのご意見を参考に選定いたしました。

本冊子は、そのワークシートをより効果的に使っていただくためのヒント集です。

『日本での生活をもっと安全にもっと充実させるための日本語教材ワークシート集』には次のように書きました。

「この教材は、実際の体験を通して「真正の学び」をするための補助ワークシートとなっています。警察官、消防士、医師、ゴミの分別の担当者などを実際に教室に招いたり、現場に伺ったりして、学習者が専門家から直接情報を得ることを意識して日本語学習の場を設定してください。日本語ボランティアは、専門家と学習者の間で日本語の理解が進むように補助をします。」

では、実際に活動をファシリテート（進行）する人は、どのようなことに気をつけて活動を進めていけば効果的でしょうか。警察官や消防士など専門知識を持つ人に講座に参加していただく場合、どのような準備が必要となり、どのような連携をとって講座を進めると外国出身の人たちの理解が深まるでしょうか。

また、ワークシートはどのタイミングでどういう使い方ができるでしょうか。日本語ボランティアさんは外国出身の人たちにどのように接したらいいでしょうか。

ワークシートを使った活動を通して、外国出身の人がより効果的な学びができるよう、そして、日本語ボランティアの皆さんや専門知識を持った人たちが外国出身の人との対話が深まるようにこのヒント集を作成いたしました。

今年度は2つのトピックに関してのヒント集をまとめました。来年度は残り10のトピックに関して作成する予定です。

ワークシート集とこの活動のヒント集をお手に取り、実践していただければ幸いです。そして、実際にお使いいただいた皆さんからさらにヒントをいただけると嬉しいです。

2021年3月

蓬萊日本語教室 代表 日下部喜美子

もくじ  
目次

トピック4	ゴミを <sup>ただ</sup> 正しく <sup>だ</sup> 出そう	1
トピック5	<sup>ぼうか</sup> 防火を <sup>こころ</sup> 心がけよう	9

# ゴミを正しく出そう

参考学習時間：3 時間

## 1 日本語学習のねらい

ゴミを分別しなければならない理由を自ら考えることで、外国出身者がゴミの分別やりサイクルの必要性を理解する。

自分が住んでいる地域のゴミの出し方を知り、地域住民とのトラブルを避ける。

周りの人にゴミの出し方を尋ねることにより、地域住民の関わりを深める。

ゴミ出しのルールが守れないのは、そのルールを知らないからかもしれません。または、そのルールに納得していないからかもしれません。日本人だけではなく、外国出身者が自分の住む地域のゴミ出しのルールを知り、その意義を理解し納得して地域社会に積極的に関わってほしいと私たちは願っています。

また、地域でみんなが快適に暮らすために、ゴミ出しのルールは守るべきものですが、このルールは絶対不変のものではないということや、より快適に過ごすために私たちが知恵を絞ってよりよく改善できる可能性もあるということを私たちは覚えておきたいものです。その改善の糸口は外国出身者の素朴な疑問に隠されているかもしれません。

## 2 学習者ができるようになることの例

- ☐ ゴミの分別の必要性を知り、ゴミを減らすためにはどうすればいいかがわかる
- ☐ ゴミを分別するために必要な言葉がわかる
- ☐ ゴミを分別して出すことができる
- ☐ 分別の方法が分からないとき、周りの人に尋ねることができる
- ☐

日本語学習をする人の状況に応じて、上の項目のどれを目指すか、目標を決めましょう。学習者の日本語レベルや、学習者の様子を見て、今のその人に何が必要か、どこまで習得すればいいかを見極めてください。上の項目全てができるようにならなくてもいいですし、新たな項目を設定してもいいです。

### 3 対象学習者

日本語のレベルは問いません。(来日間もないゼロ初級の人も参加できます。)

ゴミ収集のルールが同じ地域の参加者に絞ると効果的です。

ゼロ初級の学習者が対象者となる場合、ゴミを分別して出す必要があることを理解し、「可燃物(燃やせるゴミ)」「不燃物(燃やせないゴミ)」「資源物」「粗大ゴミ」の違いを知るだけでも生活に役立つと思います。また、ゴミに関して分からないことを尋ねる表現を習得することで、ゴミの出し方で困ることも減るでしょう。

### 4 協力者(活用できる社会資本)

学習者と同じ地域に住む人

学習者が住む市町村のゴミの担当部署の人  
(分別についてしっかり理解している人)

講師を務める人

協力者が欠かせないということではありませんが、地域の人や行政の人に外国人出身者が生活者として地域に住んでいること、ゴミ出しのルールを知ろうと努力していることをアピールするチャンスです。積極的に協力をお願いしましょう。特に行政の人には、やさしい日本語を使った行政サービスについて考えていただけるきっかけともなります。

### 5 事前の準備

☐ 市町村のゴミ担当部署に職員の講師派遣の依頼を出す。(必要に応じて)

☐ 講師と事前打ち合わせをする。(講師として参加していただける場合)

地域のゴミ収集の現状を伺い、どんなことを学習者は知っておいた方がいいか、どんなことを最低限やってほしいと行政は考えているかを聞き取り、講師に話してもらいたい内容を絞り込みます。準備物が必要な場合は、だれが準備するか確認します。

日本語学習者の日本語のレベルを伝えて、なるべくやさしい日本語で話してもらえるように依頼します。

☐ 当日参加する地域住民と事前打ち合わせをする。(必要に応じて)

この日本語講座の趣旨と流れを説明しておきます。

- ☐ ゴミを出すときに必要な物を準備する。(ゴミ袋、ひも、ハサミ、コンテナ等)
- ☐ 学習者が出しそうなゴミを準備する

実際のゴミを使う方が効果的ですが、難しい場合は、ゴミのイラストでも学習できます。

電池、バッテリー、充電器、硬質のプラスチック、よごれた食品トレイなど、分別に迷うものを取り混ぜてください。

## 6 日本語学習の流れ

### ■活動Ⅰ（イメージをつかむ）

#### ファシリテーター

どんなものをゴミとして出しているか尋ねます。それらのゴミをどのように出しているか、ゴミ出して困っていることがあるかどうかなど周りの人と話すよう促します。

自分の国ではどのようにゴミを出しているのか尋ねます。

周りの人と話した後、ワークシートの活動Ⅰに記入するよう指示します。

#### 日本語ボランティア・協力者

経験や知識をもとに学習者と話します。

学習者の話をよく聞きましょう。学習者が言いよんだ時に、言葉の手助けをしてください。

学習者がたくさん話せるように、相槌をうちながら聞いてください。

話が止まってしまったら、「あなたの国では、〇〇（ゴミの例をあげる）はどうやって捨てるの?」とか「〇〇（ゴミの例をあげる）を捨てたことがある?」というように、学習者の知識や経験を引き出す質問をしてください。

くれぐれも日本のゴミ出しのルールの説明にならないように注意しましょう。

ゴミの分別は日本人にとっても難しいと感じていること、地域によって分別の方法が違うことなどを話すのもいいでしょう。

ひとしきり話がでたら、ワークシートの活動Ⅰに日本語で記入する手伝いをします。代わりに書いてあげたり、最初から書く内容を教えたりすることはしません。学習者の質問や SOS のサインを待つて手伝ってください。



## 活動2 (知識を得る)

### <講師がいる場合>

#### ファシリテーター

講師を紹介します。

講師の話を聞いてわからないことがあったら、質問するように学習者に伝えます。

#### 日本語ボランティア・協力者

学習者と一緒に講師の話を聞きます。

学習者の様子を見て、わからないことがあったら質問するように促し、質問の仕方や質問するための日本語を教えます。

#### 講 師

打合せの内容に沿って、やさしい日本語を意識しながら、講義をします。

写真やレアリア(実物)があるとより効果的です。

### <講師がいない場合>

#### ファシリテーター

協力者と一緒にトピック4を読むよう学習者に促します。

わからない言葉があったら、協力者に尋ねるように指示します。

#### 日本語ボランティア・協力者

学習者が言葉が分からなくて困っていたら、やさしい日本語に置き換えるなど、学習者の理解が進むように手伝ってください。

読み物を読む際、学習者はすべての言葉や表現が理解できなくても構いません。大まかに内容が理解できればいいので、細かい説明をしなくても大丈夫です。

トピックは、対訳(インドネシア語、ベトナム語、中国語)があります。日本語で読む必要はありません。

また、トピック4の内容全てを読む必要もありません。分別の必要性を考えるならゴミ処理の費用に関する内容、実際に分別できるようにしたいならゴミの種類や出し方に関する内容、ゴミを減らすために何ができるかを考えるならリサイクルに関する内容といったように、日本語学習のねらいに沿って、トピック4のどの部分を読むか、ファシリテーターが指示をします。

### 活動3～活動7（言葉・表現を知る）

#### ファシリテーター

ワークシートの活動3から活動7を使い、ゴミを分別するために必要な言葉や分別方法がわからないときに誰かに質問する言い方を確認するように促します。

また、リサイクルへの意識付けを行います。

分からない言葉があれば、周りの人に尋ねるよう学習者に指示します。

#### 日本語ボランティア・協力者

学習者がどんなことを知っているのかを観察します。質問されたらやさしい日本語でヒントを与えたり、教えたりします。

すぐに答えを教えるのではなく、まずはヒントを与えたり、やさしい日本語で話し合うなど、学習者がたくさん話すように導いてください。学習者がゴミに関してどのような知識を持っているかを確認することもできます。

### 活動8または活動9（体験・行動する）

#### ファシリテーター

学習者に実際のゴミを分別するように指示します。

（ゴミを用意するのが難しい場合、ワークシートの活動9を使ってください）

どう分けたらいいかわからないときは、協力者や講師に尋ねるように指示します。

分別できたら、正しく分別できているかどうか、講師又は協力者に確認してもらうよう促します。

#### 日本語ボランティア・協力者

学習者に質問されたら答えたり、講師に質問したりするように促します。

#### 講 師

地域のゴミの出し方に従って分別できているか確認します。

ゴミの分別は地域によっても違いますし、日本人でも判断に迷うことがあることを学習者に分かってもらえることも大切です。ゴミの分別ができることも大切ですが、それよりも分からない時に周りの人に尋ねることができることのほうがより重要だと分かってもらえるように活動を進めてください。それが活動7にも繋がります。

## 活動10・活動11（発信する）

### ファシリテーター

ゴミの出し方やゴミを減らすための工夫について、外国出身者の経験や知識、考えを自由に話すように促します。

ゴミを分別することは大切ですが、同時にゴミを減らすことも重要なので、ゴミ削減のために何ができるかを周りの人と意見を交わすように促します。

話し合ったあとに、ワークシートの活動10と11に記入するよう指示します。

学習者の様子を見て、話すだけで終わってもかまいません。

### 日本語ボランティア・協力者

学習者が自分の考えを述べることができるように働きかけてください。相槌をうって話を聞いたり、学習者が伝えたいことが伝えられるよう手伝いをします。

学習者に考えを尋ねられたら答えます。

また、他の学習者を含めた周りの人の考えも聞くように促してください。学習者が他の人の考えを聞いているか、質問などをして確認してください。

学習者がワークシートに書き込むのを手伝います。

### 講師

学習者がどのように理解したか確認します。質問されたら答えます。

## 活動12（活動を振り返る）

### ファシリテーター

この活動を通して、知ったことや分かったことを周りの人たちと話すように促します。

話したことをワークシートの活動12に記入するように指示します。

学習者にした内容を発表してもらいます。

### 日本語ボランティア・協力者

学習者との講座で学んだことを話しましょう。

学習者がワークシートに書き込むのを手伝ったり、発表の練習相手となります。

活動を振り返ることで、学習者がどのように理解したか、どのように考えたかを知ることができます。ですから、学習者にたくさん話してもらってください。ゴミの分別で間違っていて理解していた場合、すぐに「違う」と指摘するのではなく、講師にもう一度確認するよう促すなど、学習者が周りの人と話す機会を作ってください。



# 防火を心がけよう

参考学習時間：3 時間

## 1 日本語学習のねらい

防火や初期消火に関する知識を得る。

火事が発生したさい、119 番通報ができる。

火事が発生したことを周囲に知らせることができる。

安全に行動し、避難することができる。

火事は大切なものを奪ってしまいます。火事になったら 119 番通報することは知っていても、いざという時には慌ててしまい、うまく通報ができないかもしれません。日ごろから意識することが大切です。外国出身者自らが 119 番通報ができればいいのですが、日本語が不安なときは、周りの人に火事が発生したことを知らせることも大切です。また、通報するさいに、自分は外国出身であることを告げると消防署の人が「やさしい日本語」で話してくれます。そういうことも知っておくと、心強いでしょう。

そして、何より大事なことは「自分の命は自分で守る」ということです。安全な行動をし、自分の命を守りましょう。

## 2 学習者ができるようになることの例

- ☐ 火事にならないように気をつけることができる
- ☐ 火事が発生したことを知らせることができる
- ☐ 消火器の使い方がわかり、使うことができる
- ☐ 初期消火の知識を得て、安全に行動ができる
- ☐

日本語学習をする人の状況に応じて、上の項目のどれを目指すか、目標を決めましょう。学習者の日本語レベルや、学習者の様子を見て、今のその人に何が必要か、どこまで習得すればいいかを見極めてください。上の項目全てができるようにならなくてもいいですし、新たな項目を設定してもいいです。

### 3 対象学習者

日本語のレベルは問いません。(来日間もないゼロ初級の人も参加できます。)

ゼロ初級の学習者が対象者となる場合、火災発生時に「火事だ!」と言って周囲に知らせることが大切だと理解するだけでも構いません。「助けて!」「119番に電話してください」と言えればさらによいでしょう。日本では、火事のときには119番に電話をするということを知ること大切です。また、消火器の使い方を見て覚えるだけでも、いざという時に役に立つでしょう。

### 4 協力者 (活用できる社会資本)

消防士

消防団員

講師を務める人

防火、初期消火の知識を得るだけでなく、消火訓練などを行うことが学習者にとっていい経験になり、役に立ちます。是非、消防署に協力をお願いしてください。消防士にとっても、外国出身者が何を知っていて、何が分からないか、どのような日本語を使えば理解してもらえるかなどを知るきっかけにもなるでしょう。

### 5 事前の準備

☐ 消防署に講師派遣の依頼を出す。(地域の消防団員に依頼するのもいいでしょう)

☐ 講師と事前打ち合わせをする。

講師に話してもらいたい内容を絞り込みます。準備物が必要な場合は、だれが準備するか確認します。

日本語学習者の日本語のレベルを伝えて、なるべくやさしい日本語で話してもらえるように依頼します。

☐ 言葉を理解してもらうために必要だと考えられる場合、写真などを準備する。

ストーブ、たこ足配線、火災報知器、コンセントなどの画像があると便利ですが、スマホなどを使ってその場で見せることもできます。

## 6 日本語学習の流れ

### 活動1～4（イメージをつかむ）

#### ファシリテーター

火事の写真などを見せ、自分の国では火事の通報は何番に電話をするのか尋ねます。日本では何番に電話をすればいいのか知っているか尋ねます。

実際に火事にあったことがあるかを聞きます。火事の原因としてどのようなことが考えられるか周りの人と話すよう促します。

もし自分の家で火事が起きたらどうしたらいいか周りの人と話すよう促します。

周りの人と話した後、ワークシートの活動1と3に記入するよう指示します。

#### 日本語ボランティア

経験や知識をもとに学習者と話します。

学習者の話をよく聞きましょう。学習者が言いよんだ時に、言葉の手助けをしてください。

学習者がたくさん話せるように、相槌をうちながら聞いてください。

話しが止まってしまったら、「あなたの国で大きな火事があった？」とか「あなたは火事を見たことがある？」「火事を知らせるために電話したことがある？」「火事は怖いですね。火事が起きたら、私は〇〇しますが、あなたはどうしますか？」というように、学習者の知識や経験を引き出す質問をしてください。

教え込む必要はありませんが、学習者が伝えたいけれどもその日本語が出てこなくて困っているときは、「それは、〇〇ですか？」などと聞いてください。「教える」ではなく、知識や経験の情報交換をするイメージで会話を楽しんでください。

ひとしきり話がでたら、ワークシートの活動1、3に日本語で記入する手伝いをします。代わりに書いてあげたり、最初から書く内容を教えたりすることはしません。学習者の質問や SOS のサインを待つて手伝ってください。

### 活動5（言葉・表現を知る）

#### ファシリテーター

活動2から4で学習者や日本語ボランティアの話の中から、防火や初期消火に関する言葉を取り上げて、知っているか、意味が分かっているか確認します。画像や、実物があったら「これは何ですか？」と尋ねます。分からなかったら周りの人に聞いたり、スマホで調べながら活動5に記入するように言います。



### 日本語ボランティア

学習者が何を知っているか観察します。学習者に質問されたら言葉を教えます。他の学習者が知っているようなら、その人に質問するよう促します。

「読み方」が間違わずに書けているかどうか見ます。

### 活動6（知識を得る）

#### ファシリテーター

講師を紹介します。

講師の話を聞いてわからないことがあったら、質問するように学習者に伝えます。

#### 日本語ボランティア

学習者と一緒に講師の話を聞きます。

学習者の様子を見て、わからないことがあるようなら質問するように促し、質問の仕方や質問するための日本語を教えます。

#### 講 師

打ち合わせに沿って、やさしい日本語を意識しながら、講義をします。

写真やレアリア（実物）があるとより効果的です。

消火器の説明は、レアリアを使い、学習者によく見えるようにすると学習者の理解が深まります。

### 活動7（体験・行動する）

#### ファシリテーター

講師の話を聞くように指示します。

講師と一緒に 119 番通報のデモンストレーションをするのもいいでしょう。

#### 日本語ボランティア

119 番通報の練習相手をしてください。

#### 講 師

119 番通報の流れを説明します。通報するさいに、必要な情報などを学習者に伝えます。

119 番通報のデモンストレーションをします。

通報の練習をする前に、火事の場所や何が燃えているかなどの状況を具体的に設定しておきましょう。自宅が火事だと設定した場合、自宅の住所や電話番号が言えるかどうかも確認しておきます。

外国出身の人からの通報だと分かったら、消防署員がやさしい日本語で話してくれるので、通報者が「私は外国人です」と言うことも有益です。

近くにいる日本人に119番通報をしてくれるように依頼する練習をするのもいいでしょう。特に、ゼロ初級の人の場合は、様子を見て、負担がない練習をしてください。

## 活動8 (体験・行動する)

### ファシリテーター

消火器を使って初期消火の練習をすることを伝えます。講師の話や、消火器の使い方を見てわからないことがあったら、質問するように学習者に伝えます。

初期消火がうまくできなかった場合の避難の仕方も講師に教えてもらうことも学習者に伝えます。

### 日本語ボランティア

学習者が理解しているかどうか様子を見ます。学習者の様子を見て、わからないことがあるようなら質問するように促し、質問の仕方や質問するための日本語を教えます。

### 講師

学習者が初期消火と避難の仕方を説明します。実際に行動で示すのも効果的です。

初期消火の方法を学習者が理解できていないようなら、はじめに日本語ボランティアに消火訓練をしてもらうのもいいでしょう。他の人の行動を見ることも学習者の理解の助けになります。

## 活動9 (発信する)

### ファシリテーター

初期消火訓練の感想を聞きます。

初期消火がうまくいかないとはどのような状況のことをいうのか、学習者に尋ねます。

初期消火がうまくいかなかったらどうすればいいか周りの人と確認するよう促します。話し終

えたらワークシートに記入するよう言います。

記入が終わったら、発表してもらいます。他の人の発表も聞いて、いいアイデアや自分が忘れていたことがあったらメモするように伝えます。

#### 日本語ボランティア

学習者に質問されたら答えたり、講師に質問したりするように促します。

学習者がワークシートに記入する手伝いをします。

#### 講 師

質問に答えます。

学習者の発表を聞いて、学習者がどのように理解したか確認します。補足することがあったら、学習者に伝えます。

消火器の使い方や初期消火の理解は大切なことです。学習者が間違って理解していないか、注意して話を聞いたり、ワークシートに書かれたものを確認してください。

学習者が勘違いしていたり、よく理解できていない様子があったら、講師や周りの人にもう一度確認するように促してください。

### 活動10（活動を振り返る）

#### ファシリテーター

この活動を通して知ったことや大切だと思ったことを周りの人と話すように促します。話したことをワークシートの活動10に記入するよう指示します。

書いた内容を学習者に発表してもらいます。

#### 日本語ボランティア

学習者とのこの講座で学んだことを話しましょう。

学習者がワークシートに書き込むのを手伝ったり、発表の練習相手となります。

活動を振り返ることで、学習者がどのように理解したか、どのように考えたかを知ることができます。ですから、学習者にたくさん話してもらってください。防火、119番通報、避難は命にかかわることなので丁寧に振り返りを行ってください。

学習者が間違って理解していた場合、すぐに「違う」と指摘するのではなく、講師などにもう一度確認するよう促すなど、学習者が周りの人と話す機会を作ってください。